

「非流暢性発話障害の脳画像解析による病態解明」へのご協力をお願い（健常者ボランティアの募集）

慶應義塾大学医学部 耳鼻咽喉科学教室では、fMRI を用いて吃音の脳機能を解明するため、広く健常者ボランティアを募集しております。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

1 対象となる方

18 歳以上の男女で、これまでに非流暢性発話障害を含む言語障害の診断されたことのない健康な方。

2 研究課題名

非流暢性発話障害の脳画像解析による病態解明

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部 耳鼻咽喉科学教室

共同研究機関：メディカルスキャンお茶の水

4 本研究の意義、目的

海外の研究から、非流暢性発話障害（吃音など）の直接的な原因は脳機能にあると考えられています。しかしこれらの研究は、英語をはじめとした日本語以外の言語を話す人を対象として行われた研究であることが多く、日本語話者での研究はまだまだ少ないと言えます。そのため、海外の脳機能研究で広く用いられている MRI と事象関連電位を用いた、日本語話者を対象として脳機能の研究が必要と考えられます。

この研究は日本語話者における非流暢性発話障害においても同様の脳機能異常が見られるのかを明らかにすることで、将来的に日本語における非流暢性発話障害の治療法開発に役立つもと考えられます。

5 協力をお願いする内容

言語障害がないことの確認のための問診、非流暢性発話障害に対する一般的な検査（吃音検査、質問紙検査）をうけていただきます。また、下記に示す fMRI の検査、事象関連電位の測定にご協力お願いします。ご協力の謝礼として、2000 円分の謝礼をお渡しします。

・ fMRI

慶應義塾大学 MRI 室あるいはメディカルスキャンお茶の水で、fMRI を受けていただきます。fMRI とは、脳の検査でよく用いられる MRI を応用し脳の機能を分析する検査です。MRI の機械の中で 20 分ほど安静にさせていただきます。

・ 聴力検査、事象関連電位

慶應義塾大学病院耳鼻咽喉科外来で、難聴の検査として一般的に行う聴力検査と、聴力を聞いて脳波を取る事象関連電位の測定を行います。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日から西暦令和9年3月31日まで

7 プライバシーの保護

この研究で収集するデータは、個人を特定できないように厳重に管理されます。データは厳重に管理し、個人情報が出ないように、最大限の配慮をしております。なお、学会や専門学術誌などに公表する際にも、個人が特定されることはありません。

8 お問い合わせ

この研究への参加ご希望の方、研究に関するご質問や、さらに詳細について知りたい方は、下記へご連絡ください。

富里周太 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科学教室 助教

電話 03-5363-3827 FAX 03-3353-1261

メールアドレス otol.group@gmail.com

対応する時間帯 平日の午前9時から午後5時まで。